

# 日本音楽即興学会 第 13 回学術大会

The Japanese Association for the Study of Musical IMprovisation  
The 13th Annual Conference

大会テーマ

即興は冒険だ！  
～音楽を創造し、共有し、発展させよう～

2022 年 1 月 9 日(日) , 1 月 10 日(月・祝)

Zoom によるオンライン開催

## 目次

- 02 ご挨拶  
大会実行委員長：藤尾かの子
- 03 プログラム
- 04 大会企画基調講演  
「即興は冒険だ！～音楽を創造し、共有し、発展させよう～」  
講演者：坪能由紀子
- 05 研究発表 1, 2  
長嶋洋一「ライヴ・サンプリングの与える臨場感と即興感について」（司会：久次米裕江）  
大類朋美「即興演奏を取り入れた新しいスタイルのクラシック演奏会の実施報告～試行錯誤の過程と学び：演奏家の視点から～」（司会：久次米裕江）
- 07 パフォーマンス発表 1  
井上春緒「Qalbaana」（司会：遠藤恭子）
- 08 学会賞授与式
- 09 研究発表 3～8  
寺内大輔「小学校音楽科における『音遊びや即興的に表現する』活動に Chrome Music Lab の Song Maker を用いる可能性の検討」（司会：久保田翠）  
山根明季子「『かわいい』音の質感について西洋音楽的探求と即興の可能性」（司会：久保田翠）  
西田望「共有される即興演奏、コミュニティとしての音楽体験：Bobby McFerrin のパフォーマンスの事例研究」（司会：久保田翠）  
相馬聰文「量子的アルゴリズムに基づく即興的音楽生成の可能性に関する一考察」（司会：味府美香）  
沼田里衣「コミュニティ音楽における音楽の参加方法に関する実践研究」（司会：味府美香）  
大森響介「音楽教員の即興演奏の育成方法に関する研究」（司会：味府美香）
- 15 パフォーマンス発表 2  
バーバラ・アスカ「スマートフォン DJAI の現状と実演」（司会：遠藤恭子）
- 16 JASMIM マッチングプロジェクト交流会
- 17 日本音楽即興学会 設立主旨
- 18 入会のご案内
- 19 日本音楽即興学会 会則
- 20 JASMIM ジャーナル 投稿規程
- 22 日本音楽即興学会学会賞規定
- 24 大会実行委員会・学会役員・委員

## 大会実行委員長挨拶

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、withコロナと呼ばれる時代に突入する中で、私たちは多くの制約を受け、困難に満ちた対応が迫られてきました。音楽に携わる者は、パフォーマンスの場、教育の場、研究の場など、各々のフィールドにおいて、様々な試行錯誤し、模索する日々が依然として続いています。それと同時に、「音楽と人間のあり方」それ自体を問い合わせ直す機会が多くありました。即興が、これまでのあらゆる時代や文化の中に見いだすことができることは周知の事実です。しかし、「今」この時代を生きる中で、即興は、人間にとって音楽とは何か、あるいは、音楽と人間の関係性とはどのようなものなのか、といった根源的な問い合わせ直すための視座として、多面的な価値を有していることも忘れてはならないでしょう。自らの音楽観やこだわりをもとに独自の音楽を創り上げていく即興や、ある特定の規則性を持たない音楽構造の即興からは、音楽の専門家であっても、あるいは音楽を専門としない者であっても、誰でも自由に探究したり参加することのできるユニバーサルな要素を見いだすことができます。また、生態学や教育学の研究分野において、人間は、乳児期から音楽的な即興性がみられることが明らかになってきています。すなわち、人間の営みにおいて、また音楽する上で、即興は切り離すことのできない価値ある存在だと言えるでしょう。

今大会は、「即興は冒険だ！～音楽を創造し、共有し、発展させよう！～」をテーマにしています。音楽教育学者であり、国内外でワークショップ、講演、コンサートの企画等を行なっている坪能由紀子氏には、基調講演においても同テーマでご講演いただきます。このパワーが湧き出てきそうな講演テーマからは、即興を主軸とした人間と音楽との関わり方に対して重要な示唆を得ることができることと胸を膨らませております。また、多様性に富み、豊かな研究発表やパフォーマンス発表の申込みがございました。みなさまの日ごろからのご研鑽に深く敬意を表すとともに、心より感謝いたします。

本来、今大会はエリザベト音楽大学での開催を予定しておりましたが、刻々と変化する状況の中、今年度もオンラインでの開催の運びとなりました。大会開催にあたり、至らない点が多々ありましたが、参加者のみなさまにはご協力と寛容なご対応をいただきました。心より御礼申し上げます。直接お目にかかることができないのは残念でなりませんが、この2日間がみなさまにとって有意義な場となりますこと、また、今大会を通じて即興を巡る実践、教育、研究がさらなる発展を遂げますことを心より祈念しております。

第13回大会実行委員長 藤尾かの子

## プログラム

### 1月9日（日）

- 12:30- 受付開始  
13:00-13:15 開会挨拶、オリエンテーション  
13:15-14:45 大会企画基調講演  
「即興は冒険だ！～音楽を創造し、共有し、発展させよう～」  
講演者：坪能由紀子  
14:55-15:25 研究発表1  
長嶋洋一「ライヴ・サンプリングの与える臨場感と即興感について」  
15:35-16:05 研究発表2  
大類朋美「即興演奏を取り入れた新しいスタイルのクラシック演奏会の実施報告  
～試行錯誤の過程と学び：演奏家の視点から～」  
16:15-16:45 パフォーマンス発表1  
井上春緒「Qalbaana」  
17:00-17:50 総会

### 1月10日（月・祝）

- 9:30- 受付開始  
10:00-10:10 学会賞贈呈  
10:10-10:40 研究発表3  
寺内大輔「小学校音楽科における『音遊びや即興的に表現する』活動に Chrome  
Music Lab の Song Maker を用いる可能性の検討」  
10:50-11:20 研究発表4  
山根明季子「『かわいい』音の質感について西洋音楽的探求と即興の可能性」  
11:30-12:00 研究発表5  
西田望「共有される即興演奏、コミュニティとしての音楽体験：Bobby McFerrin  
のパフォーマンスの事例研究」  
13:10-13:40 研究発表6  
相馬聰文「量子的アルゴリズムに基づく即興的音楽生成の可能性に関する一考察」  
13:50-14:20 研究発表7  
沼田里衣「コミュニティ音楽における音楽の参加方法に関する実践研究」  
14:30-15:00 研究発表8  
大森響介「音楽教員の即興演奏の育成方法に関する研究」  
15:10-15:40 パフォーマンス発表2  
バーバラ・アスカ「スマートフォン DJAI の現状と実演」  
16:00-17:30 JASMIM マッチングプロジェクト交流会  
17:30-17:40 閉会のご挨拶

## 大会基調講演

1月9日（日）13:15-14:45

### 即興は冒険だ！ ～音楽を創造し、共有し、発展させよう～

講演者：坪能由紀子

#### 【要旨】

人間にとて即興演奏はどのような意義を持つのだろうか。乳幼児から大人に至るまで多くの人の即興演奏を長年観察・研究し、自身も即興演奏を実践してきた音楽教育学者の坪能由紀子氏が、即興演奏がもつ「人間にとての必然性」について論じる。

（文責：長谷川諒）

# 研究発表 1

1月9日（日）14:55-15:25

司会：久次米裕江

## 【タイトル】

ライヴ・サンプリングの与える臨場感と即興感について

## 【発表者】

長嶋洋一／Yoichi Nagashima

## 【要旨】

日本音楽即興学会の諸兄諸姉にとって馴染に説法であるが、音楽演奏(広義には音具[音の出る玩具]や音楽的インсталレーションまで)の場において、事前に録音されたサウンドの再生や事前に打ち込みされたMIDIデータの再生だけ、というのは、享受する側だけでなく発する側にとっても、何か物足りないところがある。過去にはテクノロジーの限界から「打ち込みされたシーケンス断片をセンサ情報で即興的に出す」とか「サンプラーに多数用意した音響断片からランダムや即興によって選択して鳴らす」という形態の即興的音楽パフォーマンスも数多くみられてきた。しかし現在では、音響/フレーズの断片をライヴサンプリングすることも、それを各種のアルゴリズムによってリアルタイムに変容させることも、確率統計的/カオス演算などのアルゴリズムやランダム要素や即興的パフォーマンスのセンシングに対応してライブ生成演奏することも容易になってきている。筆者がこの手法(事前に音響要素を用意せずライヴ演奏の場でサンプリングする)による音楽公演活動を始めてから約20年になるが、本発表では最近の事例として、SUAC(静岡文化芸術大学)デザイン学科2回生が2021年前期の演習で制作したインсталレーション作品の事例と、筆者が最近取り組んでいる"Real Time Risset Rhythm Generator"および"Live Sampling Risset Rhythm Generator"という新しい(温故知新)音響生成システムにおける事例とを紹介し、ライヴ・サンプリングの与える臨場感と即興感について議論してみたい。

## 研究発表 2

1月9日（日）15:35-16:05

司会：久次米裕江

### 【タイトル】

即興演奏を取り入れた新しいスタイルのクラシック演奏会の実施報告  
～試行錯誤の過程と学び：演奏家の視点から～

### 【発表者】

大類朋美 ／ Tomomi Ohrui

### 【要旨】

国内外でクラシック奏者として活動している演奏家3人（ピアノ・サックス・ヴィオラ奏者）が、即興演奏を重視した演奏活動を展開することによって、音楽と社会との繋がりをより多く構築する可能性を提示し、実現することを目的としてアンサンブルグループ（グループ名：Edge Effect Ensemble）を立ち上げました。

EEEはこれまでも児童養護施設などで音楽ワークショップをするなどの活動を行なってきましたが、12月に初のライブコンサートを実施する予定です。今回は、大きく分けて二つの即興演奏の方法を軸にしたプログラムを用意しました。一つ目は「イディオマティック インプロヴィゼーション」と呼ばれる既存曲をベースにしたものであり、今回はモーツアルトのピアノトリオやバルトークのオステイナートなどの作品の作風や語法を使った即興演奏をします。2つ目はいわゆる「フリー インプロヴィゼーション」と呼ばれるもので、特に様式に囚われることのないスタイルで朗読とコラボレーションをします。

今回の研究発表では、「イディオマティック インプロヴィゼーション」に焦点を当て、具体的にはどのような即興演奏をしたのかをお話しすると同時に、これまで即興演奏を音楽学習の一環として捉えつつも聴衆の前で披露したことのない演奏家（本研究発表者）が、どのような事前準備をしたか、コンサートに至るプロセスでどのような課題や問題点、新しい気づきがあったか、そしてコンサートの振り返りなどの実施報告を行ないます。

## パフォーマンス発表1

1月9日（日）16:15-16:45

司会：遠藤恭子

### 【タイトル】

Qalbaana

### 【発表者】

井上春緒／Haruo Inoue

### 【要旨】

カルバーナは今から数百年前、北インドに生きた詩人アミール・ホスロウが作った音楽スタイルといわれる。ホスロウはイスラム王朝の歴代の王達の側近として使えるかたわら、イスラム神秘主義に傾倒していた。当時、北インドにはニザームッディーン・アウリヤーがイスラムでは禁じられていた音楽を宗教儀式に持ち込み、信者たちをファナー（トラン状態）にいざなっていた。古典派イスラム神学者たちによって作られた神と人との間にあった垣根が、稀代の宗教家によって取り払われようとしていたのだ。そのイスラム的精神世界の実験の場において、ホスロウは後にヒンドゥスターニー音楽と呼ばれることになるインド古典音楽の母体を作り上げていった。

インドは混沌だ。そこには、先住民、アーリヤ人、ドラヴィダ人、ペルシャ人、アラビヤ人、西洋人など色々な人種がなだれ込み、混じり合った。すでにカオスであった世界にさらに外来の宗教や文化が注ぎ込まれれば、それはカオスを増幅させることにしかならない。大きな輪廻の渦の中に、人々は取り込まれ、濾過され、そしてまた生まれかわる。まだ世界が混沌の闇に包まれている内から、その連鎖はずっと続いている。

“それ”を受け入れるか、拒絶するかに関わらず、“それ”はいつもそこにある。灼ける大地で人々は蠢き、そして朽ちていく。いつでもカオスは両手をひろげて待っている、・・・我々の参与を・・・。

本発表は、日本人である発表者が数百年前のペルシャの詩人へのトリビュートとして行う演奏（パフォーマンス）である。人は様々な音に対して、愛着を抱く。自分がインドの楽器に愛着をいだき、すくなくともこれまで日々、それらと戯れてこれたのは、数百年前のペルシャの詩人のおかげかも知れない。

## 学会賞授与式

1月10日（月・祝）10:00-10:10

### 2020年度 日本音楽即興学会賞

#### ○日本音楽即興学会賞

受賞者：該当者なし

#### ○日本音楽即興学会奨励賞

受賞者：長谷川諒

受賞論文：サウンドペインティングが促進する主観的（間主観的）価値判断の具体とその音楽教育学的意義

授賞理由：

本研究は『サウンドペインティング』という即興的音楽づくりの手法について的確に紹介し、教育現場における即興音楽の役割と意義そして今後の課題を明確に示し、音楽即興の発展に寄与するところが大きいと考えられるため。

授与年月日：2021年3月24日

#### ○その他学会賞選考委員会が定める賞

受賞者：該当者なし

## 研究発表 3

1月 10日（月・祝）10:10-10:40  
司会：久保田翠

### 【タイトル】

小学校音楽科における「音遊びや即興的に表現する」活動に Chrome Music Lab の Song Maker を用いる可能性の検討

### 【発表者】

寺内大輔 ／ Daisuke Terauchi

### 【要旨】

Chrome Music Lab は、google によって 2016 年 3 月に発表された、音遊び、音楽づくりを中心とした複数のコンテンツから成るウェブアプリ集である。無料かつインストール不要という手軽さに加え、使いやすくわかりやすいため、日本の学校教育にも急速に普及してきた。コンテンツのひとつ、Song Maker は、時間軸を示す横軸と音高を示す縦軸によるグリッド表示によるアプリである。日本の学校教育現場では、音を書き込むことと書いた音を再生することを繰り返し、修正しながら音楽をつくる活動のためのツールとして活用されるケースが多い。これは、現行の小学校学習指導要領に示されている音楽づくりの 2 つの活動—「音遊びや即興的に表現する」活動と「音を音楽へと構成する」活動—のうちの、後者にフォーカスした活動である。逆に、Song Maker を「音遊びや即興的に表現する」活動にフォーカスしたツールとして使用している授業実践例はあまり見当たらない。

しかしながら、発表者は、Song Maker が「音遊びや即興的に表現する」活動にも活用し得るのではないかと考えた。本発表では、発表者自身の即興演奏を例示し、そこから小学校音楽科における即興的表現活動に関連した考察を、①ティンカーリング（いじくりまわすこと）の即興演奏化、②音楽表現性、③音楽づくりの 2 つの活動の位置づけ、の 3 点に焦点を当てて述べる。

## 研究発表 4

1月 10日 (月・祝) 10:50-11:20

司会：久保田翠

### 【タイトル】

「かわいい」音の質感について西洋音楽的探求と即興の可能性

### 【発表者】

山根明季子 / Akiko Yamane

### 【要旨】

発表者はこれまで現代音楽分野での作品制作によって音の質感を探求してきた。特に質感といった感覚的なことを捉えようとする際に楽譜という形で記譜できることは限られている。

中でも「かわいい」という質感は現状、西洋音楽史上市民権を得ているとは言い難い価値観のひとつである。日本独自の美意識とも言われる「かわいい」。個々人によって異なるとも言われる「かわいい」音を捉えるにはどのような方法があり得るのか。作曲者のリアリティを細かく記譜して構成する方法を取ると、演奏者のリアリティまで引き出し音の質感としてフレッシュに現前させることは難しく感じられることが続いた。また、今に至るまで西洋音楽の実践においては崇高さや立派さのような成熟した価値観が軸としてあり、音1音出すだけでも根底から「かわいい」とは相反するような反発力が感じられる。発表者はかわいい音を音として深く捉えるために、楽譜を正確に演奏させるという強制力の発動ではなく、個々人によって各々異なる主観を作品原理として最重要事項に設定し、自発的な即興を促すための仕掛けを作ることを行った。結果、かわいい音を作るために必要なこととして、「構成されていない」「未分化である」「聴く人が自発的にエネルギーをかけて働きかけたくなることを促す音」などがいくつか共通項として浮かび上がってきた。

本発表では、かわいい音とは一体何でどう捉え得るのか。発表者自身の作品「カワイイ^\_☆」(2019-) の上演を何度も実践する中で得たことを考察し共有する。

## 研究発表 5

1月 10 日 (月・祝) 11:30-12:00

司会：久保田翠

### 【タイトル】

共有される即興演奏、コミュニティとしての音楽体験：Bobby McFerrin のパフォーマンスの事例研究

### 【発表者】

西田望 ／ Nozomi Nishida

### 【要旨】

本研究発表では、アメリカの著名なジャズボーカリスト Bobby McFerrin を事例研究とし、即興演奏がどのように全ての参加者へ包括的、創造的な音楽体験を実現できるか、即興音楽及びコミュニティミュージックの理論を用いて論じる。

即興音楽とは冒険、対話的プロセスであり、倫理的な価値を促進するものである。しかし即興演奏における音楽づくりの経験そのものは、通常、演奏家間でのみ共有される。したがって、この即興演奏の過程に演奏する立場にいない人々を巻き込むことによって、即興演奏のダイナミズムをより包括的、創造的なものへと発展させる必要がある。そこで、リー・ヒギンズ(2012)の提唱する3種類のコミュニティミュージックのうち、3つ目の「リーダーやファシリテーターが介入して、参加者と協働して行う積極的な音楽活動」という定義を用いて、ファシリテーターと参加者の間で共有される即興演奏の音楽経験について議論する。

事例研究の対象である McFerrin は、聴衆を即興演奏のプロセスに誘う、コミュニティミュージックのようなパフォーマンスが特徴的な演奏家である。この独特な演奏法はワークショップや音楽療法など、他の音楽家によって様々な方法で使用されている。

即興音楽とコミュニティミュージックの組み合わせが、全ての参加者間で共有される音楽体験の創出と、より包括的で創造的な活動への発展にいかに効果的であるかを明らかにするために、まず McFerrin の演奏法を即興音楽とコミュニティミュージックの理論を用いて説明する。また事例研究として、McFerrin のライブ映像「Live in Montreal」の内容分析を行い、どのような状況で理論が実践されるのかを探る。この分析結果を基に、コミュニティミュージックの手法を用いた即興音楽は、聴衆と音楽家の境界を越え、共有された音楽体験から共同性を生み出すことを論じる。

## 研究発表 6

1月 10 日 (月・祝) 13:10-13:40

司会：味府美香

### 【タイトル】

量子的アルゴリズムに基づく即興的音楽生成の可能性に関する一考察

### 【発表者】

相馬聰文 / Satofumi Souma

### 【要旨】

作曲・演奏における表現の多様性を追求する上で、広い意味でのアルゴリズム（必ずしも数式として表現されない場合も含む）の果たしうる顕在的・潜在的役割を議論する事は、1950 年代以降コンピュータが音楽表現に深く介在して以来ますます非自明な問い合わせとなっている。そのような中、近年、本質的に新しいコンピュータの形として量子物理学の原理に基づく「量子コンピュータ」が注目を集めています。物質科学、金融、人工生命等様々な応用が展開されている。また、量子ゲーム理論という文脈による心理学的な問題へのアプローチなど物質科学の範囲を超えた他分野への展開も精力的に行われている。これらいずれにおいても、量子物理学における非自明な論理構造「状態の重ね合わせ、量子もつれ状態、測定による状態の収縮と非局所相関」が鍵となるコンセプトである。

この数十年に渡り従来型のコンピュータが音楽表現の多様性の拡大に大きな影響を及ぼしてきたことを考えると、上述の量子物理学的論理構造、そして量子コンピュータが音楽表現にもたらし得る新規な可能性についてその有無を含めて議論する事は、今後の長期的な展望として重要な問い合わせであると考えられる。そのような展望のもと、筆者は 2018 年から情報処理推進機構未踏ターゲット事業のプロジェクトとして「量子ゲート回路を応用した音楽作成システムの開発」を推進してきたが、本講演ではその成果として特に量子アルゴリズムに基づく即興的音楽生成に焦点を当てた研究報告を行う。また、筆者は 2021 年 11 月 19 日～20 日にイギリス Plymouth 大学の作曲家 E. Miranda 氏らによって主催される 1st International Symposium on Quantum Computing and Musical Creativityにおいて講演を行う事になっており、このシンポジウム全般についての報告も行う。

## 研究発表 7

1月 10日 (月・祝) 13:50-14:20

司会：味府美香

### 【タイトル】

コミュニティ音楽における音楽の参加方法に関する実践研究

### 【発表者】

沼田里衣 / Rii Numata

### 【要旨】

本発表は、即興音楽ワークショップの内容決定及び進行方法について、「対話」の重要性という視点から考察し、発表者自身が開発した手法を実践者の立場から報告するものである。

コミュニティ音楽の領域においては、多様な背景を持つ人々が共に音楽をする方法が様々に模索されてきた。その焦点の一つは、参加の平等性である。1990年の国際音楽教育協会（ISME）の大会における定義では、コミュニティ音楽の特徴として、中心の排除、近寄りやすさ、同等の機会、自発的参加の4点が挙げられているし、コミュニティ音楽の理論と実践をまとめたイギリスのL. Higginsは、コミュニティアートの最終目的は、文化の平等性の創出にある、という定義を紹介している（2012: 36）。実際、イギリスのJ. Stevensによる『探究と反響（“Search and Reflect”）』（1985）や野村誠らの『即興演奏ってどうやるの』（2004）など、こうした考え方で音楽家が自ら開発した手法もこれまで多数出版されている。

筆者は、コミュニティ音楽療法の領域における研究をベースとして、知的障害者を中心に乳幼児から高齢者を対象に即興音楽のワークショップを行い、また国内外のコミュニティ音楽ワークショップの現場を調査してきた。これらの場において、演奏のアイディアが提案され、その音楽が価値づけられる過程に着目すると、「参加の平等」というのは完全な形ではあり得ず、その場所を支配するある独特的の価値観が優位を持っている場合が多いことが見えてきた。さらに、こうした価値の交渉は、音楽に伴って行われる言葉による対話において行われているのではないか、とも思われた。

こうした考え方をもとに、音楽を行う前後の言語的対話に着目してワークショップを開発すると、その都度、参加者は演奏以外の進行に関しても様々な役割を担い、自ら考案した多様なアイディアを表現することが分かってきた。本発表では、その具体的な手法をいくつかの事例と共に発表する。

## 研究発表 8

1月 10日 (月・祝) 14:30-15:00

司会：味府美香

### 【タイトル】

音楽教員の即興演奏の育成方法に関する研究

### 【発表者】

大森響介 ／ Kyosuke Ohmori

### 【要旨】

筆者は大学時代に教育学部の音楽科に通っていた。音楽科の学生とのやり取りや教育実習などの経験から、音楽教員や音楽教員を目指す学生の多くは楽譜を見て演奏することにとても長けていると感じた。一方で、自由に弾く、初見で弾く、楽譜がない曲を再現するなど、その場の瞬間を楽しむ即興性に欠けている人が多い印象を受けた。

生徒が即興演奏を楽しむことを可能にするためには、指導者側である教員が音楽の授業に即興演奏を積極的に取り入れていく必要がある。そして、その場の瞬間を楽しみながら演奏する即興演奏の魅力を十分に理解し、自身も即興的に表現できることが求められる。指導者側である「音楽教員」の即興演奏能力が向上すれば、生徒自身がより内発的に音楽を表現することの喜びを感じられる音楽の授業が展開できるのではないかと考えた。

本研究では、音楽教員の即興演奏の育成方法について調査するため、音楽教育における即興演奏に関わる歴史的背景、音楽教育における即興の意義や有効性、即興演奏に関するテキストや実践についての文献調査を行った上で、音楽教員の即興演奏の現状について調査するため、現職の音楽教員を対象としたアンケート調査を実施した。アンケート調査によって、音楽教員の多くが即興演奏を苦手としていることが明らかとなり、音楽の授業で即興演奏を扱わない人の扱わない理由の多くが、苦手意識があることが原因であることが分かった。

また、自己流で身につけている人ほど即興演奏が得意で、大学の教員養成課程の授業や教員になってから授業を教える中で身につけていった人ほど即興演奏を苦手としている傾向があることが明らかとなったことから、音楽教育の場で音楽教員が自ら好奇心を持ちながら自己流で身につけられる手助けや、楽しみながら即興演奏に主体的に取り組む場づくり、カリキュラムが求められる。

## パフォーマンス発表 2

1月 10日 (月・祝) 15:10-15:40

司会：遠藤恭子

### 【タイトル】

スマートフォン DJAI の現状と実演

### 【発表者】

バーバラ・アスカ / Barbara Asuka

### 【要旨】

AI による音楽表現の発展は近年目覚ましいものがある。

今回ご紹介、実演するのは自動で DJ プレイをしてくれる iPhone アプリである（複数予定）。そもそも、テンポ検出、楽曲分析は AI の得意とする分野であって、これまで DJ が個人の経験とセンスで行っていたもののかなりの部分を AI が代行することができるようになっている。現在では楽曲分析の精度もますます上がり、相当「イケてる」DJ が完全オートで可能だ。本発表は DJAI アプリの紹介と実演を行う。

## JASMIM マッチングプロジェクト交流会

本年度の大会も、昨年度に引き続きオンライン開催となったため、例年行っていた対面での懇親会を行うことができません。そこで、本大会でも、昨年度に引き続き、ウェブサイト「JASMIM マッチングプロジェクト」を活用した交流会を開催します。

### ○ウェブサイト「JASMIM マッチングプロジェクト」について

「JASMIM マッチングプロジェクト」は、日本音楽即興学会（JASMIM）会員・非会員に関わらず、「研究者」や「実践者（演奏者含む）」といったみなさまが、ご自分の関心のある分野の方とつながるためのウェブサイトです。共同研究やライブ・パフォーマンスの相手探しなどに活用していただくことを目的としています。

ウェブサイトに登録された皆様には、「自身の研究・実践の分野」や、「いまの研究上・実践上の興味・関心」「（研究や実践で）こんな人とご縁がほしい！」といった情報を登録してもらいます。登録された情報は、ウェブサイトにログインできる人にのみ、共有（公開）されます。

上述した通り「JASMIM マッチングプロジェクト」は、昨年度の第 12 回大会での交流会に活用する目的で製作されたページですが、本大会でも活用致します。

### ○「JASMIM マッチングプロジェクト交流会」について

「JASMIM マッチングプロジェクト交流会」では、「JASMIM マッチングプロジェクト」に登録された情報をもとに、大会に参加される皆様が、自由に話し合える時間を設けます。そして、皆様の研究や実践を、より豊かなものにするための貴重な場にしたいと考えています。

なお、昨年度登録された情報は、引き続き閲覧可能となっています。そのため、昨年度大会で情報を登録された方は、その情報を本年度大会用に更新することができます。また、本年度大会に参加されていない方の情報も表示されるため、交流会では、出席されている方の情報を閲覧されるようにご留意ください。

詳細については、大会当日のオリエンテーション、および交流会の時間にて説明致します。ぜひ、積極的な参加をお願い致します。



「JASMIM マッチングプロジェクト」ウェブサイトはこちら  
(<https://matching.jasmim.net/>)

「JASMIM マッチングプロジェクト」ウェブサイト制作：長山弘

## 日本音楽即興学会 設立主旨

音楽における即興性は、あらゆる音楽文化に見られる現象だと言ってよいでしょう。唯一例外だったのは、記譜に大きく依っていて即興性を少なからず排除していた西洋近代の音楽文化だけと考えられます。現在では、ジャズ、ロック、現代音楽、キリスト教オルガン音楽、インドやイランなどの民族音楽など多くの音楽領域において即興は大きな意味を持っています。

フリー・インプロヴィゼーションを提唱したデレク・ベイリーが「インプロヴィゼーション」という本を書いたのは1980年のことですが、その頃から民族音楽学、音楽学、音楽療法等の領域で、音楽即興に関する研究が増え始め、以前よりも実りが期待できそうなこの領域を切り開いていきそうな研究の方向を提示するような書も多く出現してきています。もちろんベイリーの考えも、現在の音楽に少しづつ影響を与え続けています。またポストモダンの哲学などの状況も、こういった音楽即興を考えるための自由な思考の空気を用意してきたことでしょう。

こういった状況で、われわれに必要なのは音楽即興を研究、実践両面で自由かつ学術的に議論できる場ではないかと思い、本学会へのご参加をみなさまに呼びかけます。

2008年2月21日

2008年9月14日修正

若尾 裕

## 入会のご案内

以下の入会申込必要事項をご記入のうえ (jasmimtea@yahoo.co.jp) に件名「入会申込書」でお送りください。

### -----入会申込事項-----

日本音楽即興学会に入会申し込みます。

●おなまえ (ふりかな) :

●お名前 (漢字) :

●郵便番号 :

●住所 :

●所属 :

●専門分野／活動内容 :

●Eメールアドレス :

●電話番号 :

●学生ですか？ Yes or No

(学会費は、Yes の場合 3000 円、No の場合 5000 円となります)

●入会申込みされ入会を承認された方は、会員 ML (メーリングリスト) に登録します。

上記メールアドレス以外のアドレスで、ML に登録されたい方は、その旨お書き添えください。

### -----入会申込事項ここまで-----

会員 ML の URL は、[http://www.freeml.com/jasmim\\_mint](http://www.freeml.com/jasmim_mint) です。

登録メールアドレスにメールが配信されますが、上記 URL でも過去のメールが閲覧できます。

ML 参加者のメールアドレスは公開されません (投稿すればメールアドレスは公開されます)。

### <振込口座>

学会費 (年額 5000 円。ただし学生は年額 3000 円) は、次の振込先へお振込ください。

#### 一般銀行から振り込む場合

ゆうちょ銀行

預金種目：普通 店名：四三八 (読み ヨンサンハチ) 店番：438 口座番号：5388888

口座名：ニホンオンガクソッキョウガッカイ

#### ゆうちょ銀行から振り込む場合

ゆうちょ銀行 記号：14340 番号：53888881

口座名：ニホンオンガクソッキョウガッカイ

(ATM の場合「14340-\*53888881」真ん中の 1 桁\*の入力は不要です)

## 日本音楽即興学会 会則

1. 本会は日本音楽即興学会 (The Japanese Association for the Study of Musical IMprovisation) と称する。略称はジャスミン(JASMIM)とする。
2. 本会は、音楽の即興性の研究ならびに、即興性を持つ音楽の実践に、たずさわる人々の交流を促進し、それらの発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は、会員相互の自由な意見交換の場とし、世界に開かれた学会を目指す。組織運営は、形式的運営に流れる事なく、オープンかつ民主的なものとする。
4. 本会は次の活動を行なう。
  - (1)年次総会、研究大会等の開催
  - (2)研究誌等の発行
  - (3)内外の諸団体および個人との交流
  - (4)その他、本会の目的を達成するのに必要な活動
5. 本会の会員は、個人会員とし理事会が承認した者とする。会費の額は理事会において決定する。
6. 本会には次の役員をおく。
  - (1)理事長 1名
  - (2)理事若干名
  - (3)監事 1~2名

各役員の任期は3年とし、連続して3期の再々任はできないものとする。ただし前任期の理事は監事には選ばれないものとする。
7. 本会には次の会議を設ける。
  - (1)総会
  - (2)理事会
  - (3)委員会（必要に応じて設置）
8. 総会は、会員によって構成され、本会の最高議決機関である。総会の議決は出席した会員の過半数による。ただし、会則の変更、本会の解散は、出席した会員の3分の2以上の同意による。
9. 理事は総会で互選する。理事は理事会を組織して会務を処理する。
10. 理事長は理事会で互選する。理事長は本会を代表して会務を処理する。
11. 監事は総会で互選する。監事は会計を監査する。監事は理事会に出席して意見を述べることができる。
12. 本会は必要に応じて、各種の委員会を設置できる。委員は理事会が会員のうちから指名する。
13. 会議や連絡等は、可能な範囲においてインターネットを積極的に利用する。
14. 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日とする。
15. 本会の住所は、事務局の住所とする。

2008年9月14日制定・施行  
2012年9月22日改訂  
2013年11月9日改訂  
2016年11月12日改訂  
2019年12月1日改訂

# JASMIM ジャーナル 投稿規程

## 学会誌について

JASMIM ジャーナルは、日本音楽即興学会の発行する査読付き学会誌で、広く音楽即興に関する原著論文その他の記事を公開する媒体です。当面、ウェブ版のみを発行します。

### 1. 投稿内容

- ・ 本誌(和文、英文)の投稿原稿は、広く音楽即興および関連領域の学術的発展に寄与する論文とします。すでに公表されたものや、他誌に投稿中のものは投稿できません。

### 2. 投稿資格

- ・ 投稿者は、原則として日本音楽即興学会会員に限ります。共著者も論文掲載時には会員でなければいけません。

### 3. 投稿の種類

- ・ 投稿論文の種類として、以下を設けます。

総説(review article): 一つのテーマに関連する多くの研究論文の総括、評価、解説等。

原著論文(original paper): 実験、調査、臨床経験、理論研究などから得られた、独自の知見。

研究報告(research report): 論文に至る前段階の中間報告や調査報告、実践報告、事例報告。

資料(reference material): 音楽即興の実践および研究に活用できると思われる知識、情報。

### 4. 論文の分量

- ・ 和文、英文とも、分量に制限はありませんが、「投稿用フォーマット(和文)」または「投稿用フォーマット(英文)」を用いて、総説、原著論文、研究報告は 20 頁以内、資料は 10 頁以内を目安とします。

### 5. 投稿要領

- ・ 本規程および執筆規程に従うものとします。投稿は「投稿用フォーマット(和文)」もしくは「投稿用フォーマット(英文)」を学会ホームページからダウンロードして使用してください。

### 6. 掲載の採否

- ・ 投稿原稿の採否は、査読者の意見を参考にして、編集委員会で決定します。採否の結果は、下記の要領で通知します。

A 採択

B 加筆、修正等の条件付きで採択

C 加筆、修正等の条件付きで再査読

D 不採択

- ・ 条件付きの場合、査読者の意見を参考にして、加筆、修正が必要になります。編集委員会が指定した期限内に加筆、修正ができなかった場合には、著者に差し戻します。差し戻された原稿は、次号以降に投稿があった場合、新規の投稿論文として受け付けます。

### 7. 著者校正

- ・ 著者校正は、刊行前の 1 回のみとします。校正(訂正)箇所が分かるようにハイライト(黄色マーカー)で行ってください。指定の期間内に返送してください。大幅な文章の書き換え、図表の修正等、内容に影響するものは原則として認められません。

### 8. 倫理的事項

- ・ 著者は、著作権や研究対象者の人権尊重に努めてください。倫理委員会の承認を得た場合は本文中に掲載してください。

### 9. 著作権

- ・ 著作権は本学会が保持するものとしますが、学会の承認のもとに原著者が掲載等の使用ができます。

### 10. 投稿締切日

- ・ 毎年 7 月末(投稿は隨時受け付けております)。

## 11.投稿先

- ・ 投稿原稿は、締切日までにメールに添付して、下記宛に送付してください。送付後 1 週間を過ぎても編集委員会から着信の知らせがない場合は、メールで問い合わせてください。

e-mail: jasmim.journal アットマーク gmail.com  
アットマークの部分は半角@に変更してください。

2009年7月7日制定・施行

2009年9月30日修正

2009年10月3日修正

2013年11月10日修正

2015年9月4日修正

2016年6月5日修正

2017年4月19日修正

2020年4月7日修正

# 日本音楽即興学会学会賞規定

## (設置)

第1条 本学会に、日本音楽即興学会学会賞（以下、学会賞）を設ける。

## (目的)

第2条 学会賞は本会が関与する音楽即興の分野において、その発展に貢献するところが大きいと認められる学問的あるいは実践的業績をあげたものを表彰し、もって、その研究を奨励しその発展をはかることを目的とする。

## (候補の募集と審査)

第3条 学会賞の受賞候補を選定するために、別に定める学会賞選考委員会を設ける。

## (学会賞の名称)

第4条 学会賞は次の3種とする。

1. 日本音楽即興学会賞
2. 日本音楽即興学会奨励賞
3. その他学会賞選考委員会が定める賞

## (受賞の決定)

第5条 各学会賞の受賞者の決定は学会賞選考委員会からの報告に基づき理事会が行なう。なお、委員会での選考の議事詳細は公表しない。

## (学会賞の贈呈)

第6条 学会賞の贈呈は毎年年度末に行い、翌年の総会で披露される。各賞受賞者の定員は定めないが、該当者不在の場合はその年度の授賞は見送られる。

2. 授与者は、日本音楽即興学会とする。

## (受賞候補者)

第7条 受賞候補者は、該当する賞の贈呈時に本会会員であることを条件とする。

## (日本音楽即興学会賞)

第8条 日本音楽即興学会賞は、本会分野の発展への多大な貢献につながる、次のような業績をあげた者に対して、賞状を贈呈する。

- ・音楽即興の発展に寄与するところの大きい論文の著者（「研究報告」「批評」「討論」は対象外とする）
  - ・音楽即興の発展に寄与するところの大きい研究発表の発表者
  - ・音楽即興の発展に寄与するところの大きい演奏発表の発表者
- 
2. 表彰の対象となる論文は、その年度の2月までに、本会が発行する『ジャスミン・ジャーナル』への掲載が決定した「論文」とする（「研究報告」「批評」「討論」は対象外とする）。その年度の3月に掲載が決定した論文については、翌年度の審査に持ち越される。
  3. 表彰の対象となった論文の著者が複数の場合には、本会会員の著者全員に授与する。
  4. 表彰の対象となる研究発表、演奏発表は、その年度の大会において発表されたものとする。
  5. 表彰の対象となった研究発表、演奏発表の発表者が複数の場合には、本会会員の発表者全員に授

与する。

6. 過去において同賞の受賞経験がある場合でも、候補となることができる。

(日本音楽即興学会奨励賞)

第9条 日本音楽即興学会奨励賞は、本会分野の発展への貢献を奨励することを目的とし、次のような業績をあげた者に対して、賞状を贈呈する。

- ・音楽即興の発展が顕著に期待される論文、研究報告の著者（「批評」「討論」は対象外とする）
  - ・音楽即興の発展が顕著に期待される研究発表の発表者
  - ・音楽即興の発展が顕著に期待される演奏発表の発表者
2. 表彰の対象となる論文は、その年度の2月までに、本会が発行する『ジャスミン・ジャーナル』への掲載が決定した「論文」および「研究報告」とする（「批評」「討論」は対象外とする）。その年度の3月に掲載が決定した論文、研究報告については、翌年度の審査に持ち越される。
  3. 表彰の対象となった論文、研究報告の著者が複数の場合には、本会会員の著者全員に授与する。
  4. 表彰の対象となる研究発表、演奏発表は、その年度の大会において発表されたものとする。
  5. 表彰の対象となった研究発表、演奏発表の発表者が複数の場合には、本会会員の発表者全員に授与する。
  6. 過去において同賞の受賞経験がある場合でも、候補となることができる。

(その他学会賞選考委員会が定める賞)

第10条 その他学会賞選考委員会が定める賞は、本会分野の発展に寄与するところの大きい業績の中で、日本音楽即興学会賞、日本音楽即興学会奨励賞のいずれにも該当しない場合、学会賞選考委員会が定めることのできる賞である。授賞者には賞状を贈呈する。

2. 表彰の対象となる業績とは、執筆活動、演奏活動、教育活動、録音・録画出版活動等とする。

(本規定の改定)

第11条 本規定の改定については、まず、学会賞選考委員会で協議し、総会での承認をもって成立する。

2014年12月13日制定

## 第 13 回 大会実行委員会

藤尾かの子（委員長）、安藤大地、落晃子、須崎朝子、寺内大輔、長山弘、長谷川諒、平田裕子、三宅珠穂、若尾久美、若尾裕

### 学会役員・委員

#### ●理事（2021 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで）

長谷川諒（理事長）、安藤大地、落晃子、若尾久美、若尾裕

#### ●監事

久次米祐江

#### ●編集委員会

安藤大地（委員長）、嶋田久美、田中順子、若尾裕

#### ●広報委員会

落晃子（委員長）、長山弘、若尾久美

#### ●事務局

三宅珠穂

日本音楽即興学会 website

<http://jasmim.net>

日本音楽即興学会 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/jasmimnet/>

日本音楽即興学会 Twitter

[https://twitter.com/jasmim\\_info](https://twitter.com/jasmim_info)

日本音楽即興学会事務局

[jasmimtea@yahoo.co.jp](mailto:jasmimtea@yahoo.co.jp)

日本音楽即興学会 第13回大会プログラム・抄録  
発行：2022年1月5日発行  
編集：日本音楽即興学会 第13回大会実行委員会  
Eメール：[jasmim-taikai@jasmim.net](mailto:jasmim-taikai@jasmim.net)  
WEBサイト：<http://jasmim.net/>